

子どもの姿に基づく保育を共有するための 園内研修（2）

中島寿子*

Nursery Teachers' Sharing of Early Childhood Care and Education
Based on Children in their Classes during In-Service Training : Part2

NAKASHIMA Hisako*

(Received September 27, 2024)

保育者が子どもの姿に基づく保育の過程を言語化し、共有するための園内研修について、前年度の取り組みの成果と課題をふまえて検討した。主担任保育者のエピソード記録をもとに園内研修に取り組む中では、エピソード記録を書いた保育者の問題意識の明確化や言語化を促進する問いかけが重要であった。その問いかけをもとに語る保育者によるさらなる問いかけについて話し合ったことは、各クラスでエピソード記録をもとに話し合う場にもいかされた。主担任保育者は、若手担任保育者のエピソード記録をもとに話し合う中で、自分が大切にしたいことを若手保育者に「どのように伝えるか」だけでなく、その保育者に「どのように聞くか」の大切さを実感して意識の変化が起きたことで、若手保育者とより話しやすい関係となったと考えられた。このことで、子どもの姿をもとにした保育の共有がさらにはかれた。

I 問題と目的

現在、世界的に保育の質が問われており、保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会の「議論のとりまとめ」（2020）においても、子どもの育ちや保育の過程を言語化し、保育実践に日頃触れない人にも保育所保育についての理解を共有することや、保育内容等の評価や研修等の取り組みについて常に「子どもにとってどうか」という視点から検討すること、その土台となる日々の保育の振り返りや対話、記録の充実を図ることの重要性が指摘されている。また、保育者を対象とした調査（ベネッセ教育総合研究所，2019）では、「保育者の資質の維持、向上」のために必要なこととして「園内研修の内容の充実」が回答の上位に挙げられている。

このような状況をふまえ、筆者は保育者が子どもの姿に基づく保育の過程を言語化し、他の保育者とも共有するための園内研修について検討したいと考えた。そこで

先行研究（例えば岡花他，2009）をふまえてエピソード記録をもとに話し合う園内研修を計画し、研究協力園の保育者と取り組んだ。その際には、子どもの姿に基づく保育の過程を考えるための記録の視点 SOAP（河邊，2019ab）や、教師教育プログラムとして開発された省察サイクルである「ALACTモデル」（Korthagen et al., 2001）（図1）^{注1）}において「行為の振り返り」の際に用いる「具体化を促す問い」を活用した支援もした。そして、この園内研修に参加した保育者が子どもの育ちや保育の過程を言語化して園内で共有すること、「子どもにとってどうか」という視点から保育を検討することにどのような変化が起こり、その変化にどのような園内研修の内容が関係したのかを検討した。

その結果は、以下の通りである。

* 山口大学教育学部，〒753-8513 山口市吉田 1677-1, hisako-n@yamaguchi-u.ac.jp

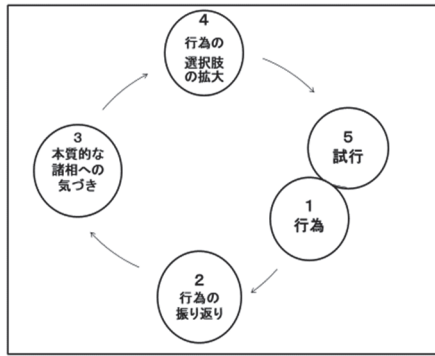


図1 ALACTモデル (Korthagen et al., 2001)

1. 園内研修のテーマと参加者

園内研修のテーマを「子どもの『主体的な遊び』とそのための環境構成・援助について考える」としたことで、保育者はより子どもの姿のもとにその思いや考え、願いを知ろうとするようになった。

また、0歳児クラスから5歳児クラスまでの主担任保育者が参加して継続的に取り組むことで、各クラスの子どもの姿や担任保育者の考えも共有できるようになり、子どもの育ちや保育の過程を長期的な視点から考え合うこともできた。

2. 日々の保育をもとにしたエピソード記録を書く

多くの保育者がエピソード記録を書く中での自分の変化を捉えていた。「取り上げた理由・みんなで検討したいこと」「エピソード名」を書くことは、自分が伝えたいことを意識化することを促した。SOAPの視点も意識することで、子どもの姿をもとにした保育の過程について考えやすく、言語化もしやすくなったと考えられた。

3. エピソード記録をもとに話し合う

エピソード記録の「取り上げた理由・みんなで検討したいこと」「エピソード名」に表れた保育者の問題意識もふまえた話し合いをした。エピソード記録を書いた保育者は、記録をもとに子どもの姿や自分の保育について語り、他の参加者からの質問に答える中で、自分が伝えたいことをどのように言語化するとわかりやすいかに気づき、自分の中で明確でなかった保育者としての願いに気づくこともあった。

このような園内研修を重ねる中で、エピソード記録に子どもの姿についての読み取りや願いも明確に記述されるようになり、記録にないことも補足して語られることが増えた。そのことで、さらに話し合いがしやすくなり、他の保育者がこれまでの保育の中でとらえたその子どもの姿を語ることも増えた。そして、その子どもの姿（SOAPのS）、子どもの姿から読み取ったことやこれまで経験したきたと考えられること（O）、今後どのような経験が必要でそのためにどのように保育をしていきたいか（A・P）について話し合う中で、一人一人が考え

る子どもの姿に基づく保育の考え方についても理解し合い、共有するようになっていった。

4. SOAPの視点と「具体化を促す問い」の活用

筆者がSOAPの視点や「具体化を促す問い」を活用して「子どもにとってどうか」という視点から問いかけることで、保育者が「本質的な諸相への気づき」に至ることもあった（「私の中では合間の自由な遊びという感覚でしかなかった」、5歳児だから「みんなで一緒に遊ぶのがよい」と考えていた等）。

その気づきから、子どもの見方や日々の保育も変化したことが、エピソード記録や園内研修で語られたことから確認することができた。

5. ポートフォリオ記録を書く

園内研修後に「気づき」「気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか」も記録することで、これまでの記録を読み返すこともでき、園内研修での気づきを日々の保育にいかすこと、実際にいかすことができたかを振り返ることを促したと考えられた。

6. 自分のエピソード記録をもとにクラス内で話し合う

園長の提案で、年度末にはエピソード記録をもとに各クラスの担任保育者全員で話し合うクラス会議の時間も確保した。担任保育者数の多い3歳未満児クラスでは、事前にエピソード記録を読んで考えたことをまとめて臨んだことで、どの保育者も自分の思いや考えを伝えて話し合うことができた。このことも、日々の保育の中での話し合いを大切にしていきたいという思いを強めることになった。

このような研究成果が得られたが、園内研修に参加した保育者間で共有したことを同じクラスの担任保育者とも共有するための方法を検討することが今後の課題となった。

本研究は、この成果と課題をふまえて引き続き取り組んだ園内研修を取り上げ、保育者が子どもの姿に基づく保育の過程を言語化し、他の保育者とも共有するための園内研修についてさらに検討することを目的とする。

II 研究の方法

II-1 研究協力者

前年度と同じ保育者に、研究協力を依頼した。前年度と同様、園長に本研究の趣旨と内容について説明して内諾を得た上で、0歳児クラスから5歳児クラスまでの主担任保育者に、本研究の目的、方法、個人情報の保護等について口頭と文書で説明をして研究協力を依頼し、全員から文書で同意を得ることができた。園内研修に参加した主担任保育者は7名である（表1参照）。3歳児クラス担任保育者G先生は、今回から新たに加わった。

表１ 園内研修に参加した主担任の保育者

クラス	保育者(保育経験・前年度クラス)	担任保育者数
0歳児	A先生 (31 年目・0歳児)	年度末は2グループ 計6名
1歳児	B先生 (18 年目・1歳児)	2グループ 各2名 (保育室は別)計4名
2歳児	C先生 (26 年目・2歳児) F先生 (10 年目・5歳児)	2グループ 各2名 (保育室は別)計4名
3歳児	G先生 (26 目・5歳児) 新たに参加	2名
4歳児	D先生 (17 年目・3歳児)	2名
5歳児	E先生 (22 年目・4歳児)	2名

Ⅱ－２ 園内研修の方法

園内研修テーマは前年度同様、「子どもの『主体的な遊び』とそのための環境構成・援助について考える」とし、主担任保育者と筆者の他に園長、主任も参加して年間6回実施した（1回の所要時間は1時間半～2時間程度）。

エピソード記録をもとに話し合う園内研修は、表2にまとめた流れで取り組んだ。この他に、前年度の課題について検討する時間も設けた。いずれの回も、筆者はSOAPの視点と「具体化を促す問い」の関係を整理した資料を配付し（表3参照）^{注2)}、園内研修の中でもSOAPの視点と「具体化を促す問い」を活用した支援をした。

園内研修後には、保育者にポートフォリオ用紙への記録をしてもらった（表4参照）。

Ⅱ－３ 考察の方法

エピソード記録、園内研修記録、ポートフォリオ記録をもとに子どもの育ちや保育の過程を言語化して園内で共有すること、「子どもにとってどうか」という視点から保育を検討することにどのような変化が起こり、その変化にはどのような園内研修の内容が関係したのかを考察する。

なお、本研究については、本学の学内委員会で倫理審査を受けて承認を得ている。

表３ 「具体化を促す問い（８つの問い）」とSOAPの視点

1. 私は何をした？	doing	5. ○ちゃんは何をした？	← S（幼児の姿） ← O（読みとり） A（どのような経験をしてほしいか） P（そのために どのような環境構成・援助をしていきたいか）
2. 私は何を考えていた？	thinking	6. ○ちゃんは何を考えていた？	
3. 私はどう感じていた？	feeling	7. ○ちゃんはどう感じていた？	
4. 私はどうしたかった？ (何を望んでいた？)	wanting	8. ○ちゃんはどうしたかった？ (何を望んでいた？)	

表４ ポートフォリオ記録用紙の様式

日 付	気づき	気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか	備考
○月○日 (○) 第1回園内研修			
○月○日 (○)			

表２ エピソード記録を取り上げた園内研修の方法

園内研修前	・保育者は日々の保育をもとに取り上げたいエピソード記録を以下のようにまとめる。 「エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと」「エピソード名」「エピソード」「考察」
園内研修中	・保育者の「エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと」もふまえて、エピソード記録をもとにした話し合いをする。 ・筆者はSOAPの視点や「具体化を促す問い」を活用し、子どもの姿に基づく保育プロセスを言語化するための支援もする。 ・園内研修の内容はICレコーダーで記録する。
園内研修後	・保育者は「気づき」「気づきをその後の保育にどのようにいかしていきたいか」をポートフォリオ用紙に記録する。 ・筆者は逐語録をもとに園内研修記録を作成し、保育者に渡す。 ・園内研修記録とポートフォリオ記録の内容もふまえて、園長・主任・筆者で相談しながら次の園内研修の計画をする。次の園内研修で保育者に渡せるように、全員のポートフォリオ記録の内容もまとめる。

Ⅲ 園内研修の実際

Ⅲ－１ 第1回園内研修（5月）

前年度の課題をふまえて、「保育の中で大切にしたいことを、他の保育者にどのように伝えていくか」「日々の保育記録や計画にどのようにいかしていくか」についても検討することにした。

この2点もふまえ、日々の保育記録の課題と工夫が可能な点について話し合う中で、主担任保育者が書く日誌の内容（週の計画、日の記録、週の評価・反省、保育者が自由に記録する「保育メモ」）を他の担任保育者とどのように共有するかに違いがあることがわかった（必ず読んでもらう。読んでもらうのではなく口頭で伝える等）。

日誌を書かない担任保育者もいるため、筆者は、可能ならば他の担任保育者に簡単にでもエピソードを書いたり報告したりしてもらい、その内容を日誌（日の記録、保育メモ欄）に取り入れるとどうかと提案した。

Ⅲ—2 第2回園内研修（7月）

始めに第1回園内研修での話し合いをもとに試みたことを報告し合い、他のクラスでも活用できないかを話し合った。他の担任保育者のエピソード記録を日誌に取り入れたクラスはなかった。

新たに参加した3歳児クラス担任保育者G先生のエピソード記録（表5）をもとにした話し合いもした。

G先生はこのようなエピソード記録をもとにした話し合いは初めてなので、まずエピソード記録を読んで紹介してもらった。G先生は「エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと」のところで「検討したいこと」がここに書かれてないんですけれども」と言って、エピソードを読み始めた。

表5 第2回園内研修エピソード記録の概要

3歳児クラス G先生
【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】 (前略)自分のイメージの世界で遊びながらも、他の子の遊びを気にして一緒に遊ぼうとしたり、自分なりに(中略)考えて仲裁しようとする姿に成長しているんだなと感じた。
【エピソード】6月27日「友達のことが気になって」 (前略) a 男、b男、c子が積木を並べたり積んだりする。c子が「G先生、これご飯よ」「フーフーしてね。熱いよ」とGの前に積木を並べ始める。それを見たa男やb男も「これ食べて」「はいどうぞ」と並べ始める。 そこへd子が来て、積木をまな板と包丁に見立てて切る仕事を始めた。そして、「いたっ。あ～切れた」と言い、Gの指の絆創膏を見て「G先生もチョッキンしたんよね」と言う(子どもたちに聞かれ、指を切ったことを説明していた)。「うんそうよ。痛かったんよ」と言うと、なぜだか少しうれしそう。(中略) そうして遊んでいると、c子がd子が使っていた積木を取り、d子が怒りだした。d子「なんで取るん。返して」c子「…」(体の後ろに隠す) d子「先生、cちゃんが取った。返してくれん」 G「(d子に)cちゃんなんで取るのかねえ。使いたいのかねえ」 d子「dが使ったのに、○△◇×…」(中略) それを見ていたb男が「cちゃん、取ったらいいのよ」と言う。a男は積木を取り上げようとする。Gは「a君待って。cちゃん、きっと自分で返してあげるから」と声をかけるが(中略)取り合いになったため、二人を止めた。(中略)すると、d子が「cちゃん、いいよ。それあげる」「dはこれもあるから…」と言って、似た積木で遊び始めた。
【考察】 まだまだ幼く、人が使っているおもちゃをほしいからと無理やり取ってしまうことが多い子どもたち。こういうけんかはよくある。積木を取られて怒っていたd子が急に気持ちが変わったのは、もしかしたらみんなが自分を援護してくれていると感じ(中略)c子はみんなに自分が悪いと指摘された気がして、c子なりのプライドが傷ついたのかなと思った。

G先生にエピソード記録を紹介してもらった後、筆者が「みんなで検討したいこと」があるか尋ねてみると、考え込んでしまったため、G先生が考えているはずの「こんなふうに育ってほしい」「こんなふうに保育をしたい」(SOAPのA・P)ということが書かれてないことを伝え、この子どもたち一人一人をこれまで見てきて思っていることを聞いてみた。「ここに出てきた子どもたちも、バックグラウンドというか、色々なものがある」「例えば、一人一人になってしまうんですけども」と言うG先生に、筆者が「多分、そこが大事だと思うので」と伝えると、「cちゃんは、特に最近…」と、まずこのエピソードでd子の積み木を取ってしまったc子について語り始めた。その中で、c子は気持ちの切り替えが難しいことが多いが、「cちゃんのこと先生見てるよ」と伝えると気持ちが和らぐと語っていた。G先生は他の子どもについても語っていた。

このG先生の話もふまえて、エピソード記録をもとにした話し合いをした。その中で、筆者がd子の積み木を取ったのは、考察にあるように「人が使っているおもちゃがほしくなった」からなのだろうかとG先生に問いかけてみると、「多分この時はそんな単純なことじゃないと思う」という答えだったので、この場でG先生が考えていたことをさらに語ってもらった。

「なんで取るのかねえ。使いたいのかねえ」と言った意図についても筆者が尋ねてみると、「一緒に考えてみたかったのかな」と語っていた。このやりとりを聞いていた前年度担任保育者C先生からは、エピソード記録とG先生の話から考えると「物というよりG先生との関わりを取られたくなかったのではないかという気がする」という話があった。その話を聞いて、G先生は「確かにそうかも」「dちゃんのやりとりに変わった時に確かにガラッと雰囲気が変わった」「cちゃんの気持ちを聞いてみるとよかった」と語っていた。

この園内研修後のポートフォリオ記録に、G先生は「自分のエピソードをもとに、その時の子どもの気持ちなどをみんなで考察することができた」「子どもと関わる時には、感覚のところで声かけをしたりしているが、記録をすることでなぜそうしたかなど自分の中でも認識できるので、エピソード記録は残していきたい」と記述していた。

Ⅲ—3 第3回園内研修（9月）

園内研修の中で「保育の中で大切にしたいことを、他の保育者にどのように伝えていくか」について検討した例として、第3回の2歳児クラス担任保育者F先生のエピソード記録（表6）をもとにした話し合いをあげる。

表6 第3回園内研修エピソード記録

2歳児クラス F先生
【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】 （前略）新しいグループの生活が始まり、子どもの姿や関わりに変化が見られたり、新しい発見があったりした。その中でeちゃんの姿が印象に残ったので、取り上げた。
e子:（前略）自己主張や言葉が少なく、母親から聞く家庭での姿に比べ、かなり大人しい印象を受ける。遊びの間も保育士と一緒にいることが多かったが、少しずつ自分のやりたいことで遊んだり、友達と一緒にいる姿が見られるようになってきた。友達が走っていたら真似して走るなど、自分からはあまり出さないが、友達と一緒にすることの楽しさは感じている。 【エピソード】9月12日 「かくれんぼ」 （前略）e子とf子がジャングルジム近くで一緒にいるのが見えた。（中略）e子が両手で目を隠しながら「もういいかい」と言っていた。f子は聞こえているのかいないのか（中略）ウロウロしていたので、f子に「隠れない」と言い、一緒にジャングルジムの陰に隠れた。e子に「もういいかいって言ってくれる？」と聞くと、また「もういいかい」と言っていた。 f子と二人で「もういいよ」と返すと、e子とジャングルジム越しに目が合ったが、両手を口にくわえて動かなくなったので、探してみるよう促すと、ゆっくりこちらに歩いてきた。Fとf子の横にきたので、「見つけたって言うんだよ」と言うと、小さい声で「みーつけた」と言っていた。かくれんぼはそこで終わった。 【考察】e子が関わろうと思っているが（f子が）気付いていないと思ったので遊びに入ったが、（中略）e子から保育士に関わろうとすることはよくあることなので、無理にこの場面に関わらなくてもよかったのかもしれない。（中略）e子は驚いたかもしれない。焦らず一旦話をし、遊びに入ってもよかったと思う。

F先生はこのエピソード記録のe子の姿をもとに、次のように語っていた。

- ・自分でやり出したのは、e子にとって大きなことだったのではないかと思います、遊ぼうと思ったが、「固まっていた」。e子の中でやりたいことと違ったのだろう。
- ・e子は自由に動き回るf子の真似をすることが増えており、一緒に遊びたかったのだろうが、「もういいよ」と返してもらうだけで満足だったかも知れない。

エピソード記録をもとに話し合う中で、e子がしていたかくれんぼは日頃からよくする遊びなのかと質問されると、F先生はもう1グループの担任保育者X先生（保育経験1年目）がすきでよくやっており、子どももすきになった、e子はグループが違ったが、見ていたのではないかと語っていた。

他の保育者からも、この場面の具体的状況、e子の普段の姿やそれまでの姿について質問があり、それに答えたF先生の話や、それぞれの保育者がこれまで見てきたe子の姿をもとに考えたことも伝え合いながら、ここでのe子の考え、気持ち、願い等について一緒に考えてい

った。e子がf子の真似をして遊びを楽しむ姿が見られていること、f子は自分の思いを出す「自由な人」であることも話題となり、それらのこともふまえると、e子もf子のように「自分を出したい」という要求はあり、f子を真似しながら「自分のやりたいこと」をしているのかもしれない等の意見が出た。

このF先生のエピソード記録には「みんなで検討したいこと」が明記されてなかったため、筆者が「聞いてみたいこと」がないか尋ねてみると、F先生から次のような悩みが語られた。

- ・園内研修のテーマでもある「主体的な遊び」は難しい。
- ・保育士がどんどん進めるのは、やろうと思えばできる。X先生もどんどん自分から遊んでくれている。
- ・年齢による違いもあると思うが、子どもの主体性に重きを置く上で、他の先生が意識していることがあれば聞きたい。

筆者がF先生に「若い先生が一生懸命保育をしている気持ちはそがないように？」と尋ねると、F先生は「ああ、そういうことです」と答えた。前年度の園内研修の中で0歳児クラス、1歳児クラスの主担任保育者が子どもの主体的な遊びについて考える中で子どもが自分から何かをしようとする場面を捉えるようになったことも挙げて、さらに「そういうところはどうです？」と尋ねると、F先生は次のように語った。

- ・例えば、e子が一人でじっとしていると、やっぱり心配になってきて、「これやろうか」と言うと、e子は頷く。X先生の気持ちはわかるが、それがe子が本当にやりたいことかという、きつと違うと思う。
- ・「こういう視点も大事だよ」ということを伝えていくにはどうしたらよいか。

他の保育者も、日頃から子どもと一生懸命遊ぶX先生の姿を見ているため、その思いは大切にしたい、しかし、子どもを「引っ張って」自分が「主役」になっている、楽しくさせてあげようと一生懸命で「この子の遊びを壊したかな」という視点はないだろう、若い頃は「一瞬待ってみよう」というのは難しい等の意見が出た。

そして、「こういう視点も大事だよ」と伝えるには、このエピソード記録をもとにF先生が考えたことを伝え、どのように思うか聞いてみる、園内研修で話し合った内容を伝えてみる、2グループの担任保育者4名全員（表1参照）で話してみる等の案が出た。

園内研修後、F先生はポートフォリオ記録に「子どもと楽しく遊ぶのを前提に、その中で身につけてほしいこと、大切にしていることを伝え、それぞれの保育士のやり方の中で、共有できるようにしたい」と記述していた。

Ⅲ—4 第4回園内研修(11月)

第4回で2歳児クラスのもう1グループの主任担任保育者C先生のエピソード記録をもとに話し合うと、C先生もF先生と同様に子どもが自分からしようとする姿を大切にすることをどのように伝えようとよいかという悩みを語ったが、担任保育者全員での話し合いは実施できていなかった。他の保育者も、勤務時間も違う中で担任保育者全員が集まって話す時間の確保は難しいと語っていた。

このような状況をふまえ、園長から、前年度のように時間を確保し、園内研修で学んだことをいかしながら、担任保育者全員でエピソード記録をもとにしたクラス会議を実施すること、今回は記録を書く機会が少ない他の担任保育者にエピソード記録を書いてもらうことが提案された。

エピソード記録を書くことになった保育者は、「主体的な遊び」に着目してどのようなエピソードを取り上げるか悩んでいたが、主任担任保育者がエピソード記録の書き方も伝えて、12月中旬から1月中旬にかけて実施した。

Ⅲ—5 第5回園内研修(1月)・第6回園内研修(3月)

第5回では、各クラスの主任担任保育者が、クラス会議で取り上げたエピソード記録を紹介し、エピソード記録をもとにクラス会議でどのような話し合いをしたかを報告した。エピソード記録だけでわかりづらい点は、主任担任保育者が補足していき、クラス会議を体験して自分が考えたことについても語った。

第6回では、主任担任保育者がエピソード記録を書いた担任保育者にクラス会議後に考えたことについて聞き取ったことを報告し、そのこともふまえて自分が考えたことについても語った。

エピソード記録をもとにした話し合いの具体的な進め方はクラスによって違っていたが、どのクラスもエピソードに取り上げた子どものこれまでの姿と一緒に振り返り、どのような変化を読み取れるかを話し合う時間を設けていた。

【2歳児クラスのクラス会議】

2歳児クラスの担任保育者X先生とY先生(保育経験3年目)は、二人とも遊びの中でいつもと違う姿が見られた子どもの姿を取り上げていた(表7)。

2歳児クラス主任担任保育者C先生の報告をもとに、以下にX先生のエピソード記録をもとに話し合ったクラス会議の概要をあげる。

話し合いの中で、X先生はg子が「楽しそう」と言ったので誘ったが、もう少し様子を見てみてもよかったかも知れないと語っていた。F先生は、その言葉を受け止められたことはよかったのではないかと、g子はやってみようかどうかと思っていて、最終的には楽しんで

表7 第5回園内研修で紹介されたエピソード記録

2歳児クラス X先生
【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】 泥団子をよく作って泥遊びをしているg子が、この日の泥遊びになかなか参加せず、見ているだけだったので、理由があるかも知れないと思い、見てみることにした。
【エピソード】 12月12日 「泥あそび」 (g子 様々なことに興味を持ち、遊びへもよく参加している。) 砂場遊び(料理作り)が好きで、雨の日の次には泥団子をよく作っている姿をよく見かける。汚れることに抵抗はない。 (前略) 昨日の雨で砂場がぬかるみになっているところに、子ども達がワウッと入っていく中、g子は入らず、端の方で泥を集めていた。しばらくしても、その場から離れることなく、皆が楽しそうにぬかるみに入って言う姿をじーっと見ていた。すると、小さな声で「楽しそう」と一言。「gちゃんもおいでよ」と誘うも、笑顔で首を横に振られた。 少ししてやっぱり気になり、g子が足を入れてみると、「べちゃべちゃ。汚れる」と言いつつも楽しそうだった。しばらく足をつけてフミフミしたり、沈むところを探して足を入れてみたり、遊び始めるとおもしろかったようで、十分に楽しんでいた。 満足した後は、また料理作りをしていた。
【考察】 珍しくg子は遊びに参加していないと思ったが、もしかすると、入るタイミングをうかがっていたのかもしれない。g子がやってみたいという気持ち(「楽しそう」という言葉)を汲み取れたのはよかったと思う。

満足できたのではないかと、C先生はこの関わりが正解というものはないと思うと伝えた。

そして、g子の言葉があつてこのように関わったが、もう少し様子を見たり待ったりすると、g子はどうしたんだろうかということも一緒に考えた。これまで0歳児クラスを担当していたY先生からは、自分から言葉で伝えられない0歳児の様子を見たり待ったりしてきたことが語られ、そのように子どもから言い始めたり、発信してきたりする姿がもっとたくさん見られたかも知れないと話し合った。

C先生はこのクラス会議を振り返り、どのように質問をしていくのか考えるのは難しいと思ったと語っていた。

【1歳児クラスのクラス会議】

2歳児クラスと同様に担任保育者数が多い1歳児クラスの担任保育者Z先生が書いたエピソード記録にはエピソード名や考察がなかったため、主任担任保育者B先生が補足をしながら報告した(表8)。

B先生の報告をもとに、以下にZ先生のエピソード記録をもとに話し合ったクラス会議の概要をあげる。

この話し合いをする際に、B先生はエピソード記録に取り上げたh男の4月からの姿がどのように変化したかについても問いかけ、担任保育者が一人ずつ話をしていった。その中で、h君が友達の物を取ってしまった時は

表8 第5回園内研修で紹介されたエピソード記録

1歳児クラス Z先生
【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】 h君の思いと友達への伝え方。言葉で伝えようと促しているが、相手に伝わらないというもどかしさがあった。他のどんな思いがあったのか。もっとよい対応があったのだろうか。
【エピソード】 12月（エピソード名なし） h君がi君、j君などいろんな友達の服を持っていき、友達が気づいて「やめてー」「かえて」と怒ったり追いかけたりする姿を楽しんでいた。 h君には友達が嫌がっているから片付けようということや、h君の服ならいいよなど、他のものへと誘ってみるが、興味を持たず、h君の「好きな友達とかかわりたいという気持ち」「ぼくを見て」「追いかけて」などの思いと、友達が嫌な思いをしていて「h君またした」と言葉で言っても分かってくれない、そんな様子が見られた。 何回も繰り返すので、その度にお互いの思いを伝えたりするが、他にどのような言葉かけや対応があったかなと思った。
【考察】（記述なし）

「〇〇君が持っていたから返してあげて」「取るんじゃないかって貸してだったよね」等伝えているが、なかなか伝わりにくい、h君が何をしたいのか考えながら見守っているが、いけないことは伝える必要があるので、自分ももどかしい気持ちがあると語る保育者もいた。B先生は、h君が以前より目が合うようになり、相手に合わせて行動していると感じられる姿も見られるようになったという話をした。

B先生は「今自分が大変だと思っていること」についても尋ね、一人一人が子どもの姿を具体的に挙げながら自分の悩みを語っていった。

その後、h君とどのように関わっていくとよいかという問いに戻り、やはり今はh君がどうしたいのかを見ていきながら、繰り返し「今はこうだったよね」等伝えて関わっていくのがよいのではないかと話し合った。

このクラス会議後に2歳児クラス担任保育者X先生、1歳児クラス担任保育者Z先生が考えたこと、2歳児クラス、1歳児クラスの主担任保育者が考えたことを表9、表10にまとめた。

X先生、Z先生とも、クラス会議で話し合い、他の担任保育者から話を聞いたことがよかった、今後の保育にもいかしていくことができると考えていた（表9・表10下線部）。また、X先生はエピソード記録を書いたことでの気づきがあったこと、Z先生は困っていることや悩みも話して聞いてもらえたことで「また保育を頑張ろう」と思えたと考えていた（表9・表10下線部）。

2歳児クラス主担任保育者F先生、C先生は、いずれもX先生、Y先生に変化があったと捉えていた（表9下線部）。また、F先生は自分から同じグループのY先生に

表9 クラス会議を体験して：2歳児クラス（一部）

【エピソード記録を書いた2歳児クラス担任保育者：X先生】 記録することで、その子のその時の思い、新たな一面を発見できたように思った。 意見を出し合ってみると、遊びの観点をより深められ、クラス全体で今後の保育がより豊かになっていくように感じた。
【2歳児クラス主担任保育者：F先生・C先生】 F先生 ・X先生は弱音をはくようになった。 ・同じグループのY先生に、自分から話そうと意識するようになると、Y先生もいっぱい話してくれる。 C先生 ・X先生は色々な気づいたのか戸惑いが見られる。子どもに合わせているのだろう。 ・Y先生は困っていることを出すようになった。 ・エピソード記録から、どのように子どもの姿を捉え、どんな事が気になり悩んでいるのか知り、安心して話し合いやアドバイスができるようになった。エピソード記録をもとに話し合う事は、思いの共有の糸口になる。

表10 クラス会議を体験して：1歳児クラス（一部）

【エピソード記録を書いた1歳児クラス担任保育者：Z先生】 普段はゆっくり話す時間はないので、クラス担任同士で話し合う事ができてよかった。色々な対応の仕方があると分かるし、（子どもが）どんな思いなのか、大事にしたい事など共有できた。困っている事や悩みも話すことができ、また保育を頑張ろうと思えた。
【1歳児クラス主担任保育者：B先生】 ・若い職員の考えていること、こんな時にどう対応したらよいかについても「私はこうしているよ」等、具体的に話す事が大切だと再確認した。 ・聞き役に回る事の大切さ、聞き取ることの難しさも感じた。喋り過ぎず、「どうだった?」「どう思った?」と聞くと、話してくれる事がたくさんある。

話そうと意識するようになった、C先生はエピソード記録から子どもの姿をどのように捉え、どのようなことが気になり悩んでいるかを知ること、安心して話し合いやアドバイスができるようになったと、自分自身の変化についても語っていた（表9下線部）。

1歳児クラス主担任保育者B先生は、クラス会議を体験して、若い保育者が対応に悩んでいることに、自分の体験に根ざした具体的な話をするのが大切だと再確認するとともに、聞き役に回り、若い保育者の話を聞き取ることの難しさを感じていた（表10下線部）。そうすることで、若い保育者も自分が考えていることを話してくれることも実感していた（表10下線部）。

他のクラスも、エピソード記録を書いた担任保育者が伝えたいことを話せたことや、自分の聞きたいことについて先輩保育者から体験をふまえた話を聞いたことがよかったと語っていたと報告することが多かった。2歳児クラス主担任保育者のように、自分から話してくれるよ

うになった等の変化を語る保育者もいた。また、1歳児クラス主担任保育者のように、若い保育者の話を聞き取ることの大切さを実感し、つい自分の考えを話してしまい、相手の話をきちんと聞き出す力がついていないと語る保育者もいた。

第6回には、これまでの園内研修の中での自分の変化と、なぜそのように変化したと考えたかについても語った。その一部を表11にまとめた。

表 11 これまでの園内研修の中での自分の変化（一部）

A先生（0歳児クラス） 0歳児のエピソード記録を書くのに悩んだが、<u>他の先生方の思いも聞くことで、「子どもの主体性」について意識するようになり、クラスの担任保育者とも話すようになった。</u>
B先生（1歳児クラス） 子ども達の中から出てくる思いが、「主体的」と捉えることができると今は感じている。<u>子どもをよく観察することを心がけるようになった。</u><u>同じクラスの保育者の話を聞き取ること、自分に見えてなかったことに気づいた。</u>
C先生（2歳児クラス） クラス会議の中で、<u>子どもとの関わり方は違っても、他の保育者も「こんなふうになってほしい」という思いは同じとわかり、安心して自分の思いも伝えられるようになった。</u>
F先生（2歳児クラス） 今まで若い先生と担任する経験がなかった。一日フルに組むと、<u>しっかり共有しないといけないことは違う。</u><u>クラス会議で若い先生の思いや悩みがたくさんあることがわかった。</u>
G先生（3歳児クラス） エピソードを書くことで、<u>自分の保育を振り返ったり、他の人の意見を聞き、新たな考えを持つことができた。</u><u>子どもの心の裏側もより気にかけるようになった。</u>
D先生（4歳児クラス） エピソード記録を書きながら、<u>自分の保育、子どもへの関わり方などを振り返ることができた。</u><u>子どもの言動が本心でないこともあることを研修の中で学び、以前よりも子どもがその時その場面で何を感じているのかと考えて少し引いてみるようになった。</u>
E先生（5歳児クラス） この研修で<u>他の先生から助言をもらってやってみようと思</u><u>い、子どもと一緒に話し合い、考えることが増えた。</u>

注) 自分の変化については波線、なぜそのように変化したと考えたかについては点線で下線を引いた。

エピソード記録を書いて自分の保育について振り返ること、エピソード記録をもとにした話し合いで他の参加者の話を聞くことで、「子どもの主体性について意識するようになった」(A先生)、「子どもの心の裏側もより気にかけるようになった」(G先生)、「子どもをよく観察することを心がけるようになった」(B先生)、「子どもがその時その場面で何を感じているのかと考えて少し引いてみるようになった」(D先生)、「子どもと一緒に話し合い、考えることが増えた」(E先生)等、日々の保育の中での

子どもの見方や自分の子どもとの関わり方に変化があったことについて語られた。

0歳児クラス、1歳児クラスの主担任保育者は、子どもの主体性について意識し、再考するようになったことについては前年度も語っていたが、「クラスの担任保育者とも話すようになった」(A先生)、「子ども達の中から出てくる思いが、主体的と捉えることができると今は感じている」(B先生)と、さらに自分の中で変化があったと語っていた。

園内研修では、他の担任保育者のエピソード記録をもとにしたクラス会議の内容について報告し、話し合う場も設けた。担任保育者数が多く全員で集まることが難しい3歳未満児クラスの主担任保育者は、「自分に見えてなかったことに気づいた」(B先生)、「若い先生の思いや悩みがたくさんあることがわかった」(F先生)、「こんなふうになってほしいという思いは同じとわかり、安心して自分の思いも伝えられるようになった」(C先生)等、このクラス会議を体験したことでの自分の変化について語っていた。

このような自分の変化について語り合った後、第6回園内研修の最後には、園長から、次年度は年間を通して担任保育者全員がエピソード記録を書いてクラス会議を実施し、その内容もふまえて引き続き園内研修を実施してはどうかと提案があった。

第6回園内研修後のポートフォリオ記録には、「仲間達としっかり向き合って語り合うこと、そのための時間を作ることを意識していきたい」(A先生)、「話し合うことでお互いの思いを分かり合える場になるようにしていきたい」(B先生)、「ちょっとした時間にでも、伝えたいことをさらっと伝えたり、相手の意見を聞くことができるようになっていきたい」(C先生)、「自分の思いを出してもらうには、聞く側の姿勢も意識しないといけない」「話しやすい雰囲気とか、言葉など気をつけていきたい」(G先生)、「3歳以上児クラスはまだ(3クラス)全体での話や共有ができていない」「みんなで共有したいことや保の中でおさえたいことなどを話したい」(D先生)等の記述があった。

IV 考察と今後の課題

本研究では、前年度の取り組みの成果と課題をふまえて引き続き園内研修に取り組み、保育者が子どもの姿に基づく保育を考えて言語化し、他の保育者と共有するために効果的な園内研修についてさらに検討した。

前年度に引き続き「子どもの主体的な遊び」に着目したエピソード記録をもとに、同じ参加者で継続して実施することで、子どもの姿に基づく保育の過程を保育者がさらに意識して考えるようになったことが、エピソード

ド記録、園内研修での話し合いやポートフォリオ記録から確認できた。

新たに参加した保育者も、自分が取り上げた子どもの姿をもとにした話し合を体験することで、子どもに対する感覚的な自分の関わりについて再考できるエピソード記録のよさを実感していた（Ⅲ－2 第2回園内研修）。

このような園内研修での話し合いにおいては、エピソード記録をもとにどのような問いかけをするのが重要であった（Ⅲ 園内研修の実際 本文下線部参照）。例えば、「みんなで検討したいこと」がエピソード記録に明記されていない場合、新たに参加した保育者には、話し合う前にエピソードに取り上げた子どもについての理解や願いについて問いかけて、語ってもらった（Ⅲ－2 第2回園内研修）。また、前年度から参加している保育者には、エピソード記録をもとに語られた内容をもとにさらに問いかけて、語ってもらった（Ⅲ－3 第3回園内研修）。このような問いかけによって、その保育者の「伝えたいこと」「問題意識」の意識化・明確化が促進され、言語化も促進されていた。

前年度の話し合いの当初は、筆者がエピソードに取り上げた場面のわかりづらい点について質問することが多かった。また、「具体化を促す問い」やSOAPの視点も活用し、「子どもにとってどうか」と問いかける質問をすることも多かった。しかし、次第に保育者同士でエピソード記録をもとに質問し合うことで、その子どもの考え、気持ち、願い等について考え、「子どもにとってどうか」という視点から一緒に考えるようになった（Ⅲ－3 第3回園内研修参照）。

筆者の問いかけをもとに語った保育者による、「こういう視点も大事だよ」と若手保育者に伝えるにはどうしたらよいかという問いかけ（Ⅲ－3 第3回園内研修 本文下線部）をもとに話し合うこともあった。このことは、エピソード記録をもとに同じクラスの担任保育者で話し合うクラス会議にもいかされた。このクラス会議は、エピソード記録を書いた担任保育者にとっては、自分なりに書いた記録をもとに、日頃はなかなか話せないことを伝え、自分の質問をもとに先輩保育者から体験に基づく話をしてもらう機会となった。そのことで、子どもの見方や自分の保育について再考したことも窺えた。

主担任保育者は、エピソード記録からその担任保育者の子どもの見方や保育者としての考えや悩みを知り、他の担任保育者が語ることに耳を傾けることで、自分たちが大切にしたいことを「伝える」だけでなく、その保育者に「聞く」ことの大切さと難しさを実感していた。そのことは、日々の保育の中で子どもや保育についての話しやすさにもつながった。また、エピソード記録を書いた担任保育者が自分から話してくれることが増えた

等の変化も語られた。これらのことから、各クラスにおいて、子どもの姿をもとにした保育の共有を以前よりもしやすくなったと考えられた。

また、このクラス会議を各クラスで実施して終わるのではなく、園内研修でエピソード記録をもとにどのような話し合いをしたか、エピソード記録を書いた担任保育者はこの体験をもとにどのように考えたか、主担任保育者自身はどのように考えたかを報告し合い、話し合ったことは、この試みの成果と課題をみんなで確認し合う機会になった。

次年度は、年間を通してエピソード記録をもとにしたクラス会議と、その内容を取り上げた園内研修を実施する予定である。この園内研修に引き続き参加し、子どもの姿に基づく保育の過程を言語化し、保育者間で共有するために効果的な方法について今後も検討していきたい。また、今回の園内研修でも検討が十分ではなかった「日々の保育記録や計画にどのようにいかしていくか」についても検討していきたい。

注

- 1) この省察サイクル(図1)の第1局面は「行為(Action)」で、第2局面でその「行為を振り返る(Looking back on the action)」 。その中で、第3局面の「本質的な諸相への気づき(Awareness of essential aspects)」に至れば、第4局面の「行為の選択肢の拡大(Creating alternative methods of action)」へとつながり、第5局面で「さらなる試み(Trial)」が行われるというものである。この省察サイクルでは、第3局面の「本質的な諸相への気づき」に至るために、第2局面「行為の振り返り」において8つの「具体化を促す問い」を用いる。この問いによって、自分の保育について「子どもにとってどうか」という視点から振り返ることができる。
- 2) 表3は、「具体化を促す問い」の中の問いの5がSOAPのS(子どもの姿)、問いの6・7・8がSOAPのO(読み取り)に対応することと、そこからA(保育者としての願い)、P(そのための環境構成・援助)と考えていく過程を理解できるようにまとめた。表3の作成にあたっては、村井他(2020)の保育実践の協同的省察のためのワークシートも参考にした。

引用文献

- ベネッセ教育総合研究所(2019) 第3回 幼児教育・保育についての基本調査。
- 保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会(2020) 議論のまとめー「中間的な論点の整理」にお

ける総論的事項に関する考察を中心にー。

河邊貴子 (2019 a) 「驚き」や「喜び」を記録し、子どもの育ちを読み取って、次の援助につなげる。ベネッセ次世代育成研究所これからの幼児教育, 2019 年春号, 2-5.

河邊貴子 (2019 b) 保育の計画につながる保育記録とはー SOAP記録が促す「理解から援助へ」の過程ー。子ども学, 7, 141 - 160.

Korthagen, F. A. J., Koster, B., Lagerwerf, B. & Wubbels, T. (2001) *Linking practice and theory : The Pedagogy of Realistic Teacher Education*. Routledge. (武田信子監訳 (2010) 教師教育学：理論と実践をつなぐリアリスティックアプローチ. 学文社.)

岡花祈一郎・杉村伸一郎・財満由美子・松本信吾・林よし恵・上松由美子・落合さゆり・山元隆春 (2009) 「エピソード記述」による保育実践の省察ー保育の質を高めるための実践記録と保育カンファレンスの検討ー. 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 37. 229-237

村井尚子・坂田哲人・今井豊彦・落合陽子・松野敬 (2020) 保育実践への協同的な省察の効果への実証的研究 (1). 日本保育学会第 73 回大会発表論文集, 621-622.
中島寿子 (2024) 子どもの姿に基づく保育を共有するための園内研修 山口大学教育学部研究論叢, 73. 265- 274.

謝辞

本研究にご協力いただきました保育園の先生方に心よりお礼申し上げます。

付記

本研究は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（課題番号 22K02407）の助成を受けている。

また、本研究は日本保育文化学会第 10 回大会（2024）における口頭発表「子どもの姿に基づく保育プロセスを共有するための園内研修（2）」に大幅な加筆修正をしたものである。